

「ネットワークポリマー論文集」投稿規定

(2017年5月改訂)

ネットワークポリマー編集委員会

1. 投稿資格

制限は設けていない。

2. 著作権

本誌に掲載された原稿および記事についての知的財産権（著作権：電子化の二次的著作物の利用に関する権利を含む）は、合成樹脂工業協会に帰属する。著者自身が自分の論文の全部または一部を複製・翻訳・翻案などの形で利用する場合は、その著作物の出典を明記する限り、これに対して本協会は原則的に異議申し立てをしたり、妨げたりすることはしない

3. 原稿の種類（別表参照）

3.1 原稿の種類

次の7種類とする。(1)は(3)の詳細を除き、印刷物として未発表のものに限る。

(1) 報文（刷り上がり目安10ページ以内）

ネットワークポリマーに関連するもので、独創的な内容、価値ある結論あるいは事実を含む一般報文と、ネットワークポリマーに関連するもので、工業に直結した新しい知見や、企業化または中間工業化など応用面で価値あるデータ、方法等を主な内容とする技術報文とがある。両方を総称して「報文」とする。

(2) ノート（刷り上がり目安4ページ以内）

断片的であっても、新しい価値ある事実を含む論文で、著者あるいは著者以外の既往の論文に対する補遺・意見なども含まれる。

(3) 速報（刷り上がり目安3ページ以内）

独創的で重要な発見又は結論を含み、それを承認するに足るデータを揃え、他に優先して掲載する必要のある論文。その詳細は、後日、一般論文として投稿することができる。

(4) 総説（刷り上がり目安10ページ以内）

ネットワークポリマーに関連するもので、主題についての文献を集め、体系的に整理、論述したものである。

(5) 総合論文（刷り上がり目安10ページ以内）

著者が最近発表した複数の原著論文、特許、技術報告書に関連づけ、一連の研究成果をまとめて執筆したものである。

(6) 解説（刷り上がり目安6ページ以内）

ネットワークポリマーに関連するもので、主題の技術内容について解説したものである。

(7) 報告・資料（刷り上がり目安3ページ以内）

ネットワークポリマーに関連する報告・資料と認められるもの。

(8) その他、巻頭言、若手研究者の目があり、編集委員会より、種類、テーマを指定して、特別に執筆を依頼するもの。

3.2 原稿の構成

原稿の構成は別表による。

但し、本文が英文の場合は、和文概要は不要である。

3.3 原稿の作成

原稿は、和文または英文とする。「原稿執筆の手引」に従い、原則としてパソコンを用い、Microsoft Word, Excel, PowerPoint のいずれかにより、A4用紙（文章は縦置き、横書き）で作成する。図表は縦、横の向きは問わない。

3.4 原稿の提出

原稿は電子ファイル化（10MB以下目安）し、投稿カードと共にメールにて、事務局に送付する。メール添付に問題がある場合はCD、USBメモリ等を送付する。

原稿の締切日が予め決まっている場合は締切日までに発信し、もし、間に合わないことが予想

される場合は、それが分かった時点で事務局にその旨と脱稿の見通しを連絡すること。締切日に遅れた場合は、予定号に掲載できないことがある。投稿の場合は、その旨と脱稿予定時期をなるべく早めに事務局に連絡する。

特集号等で掲載内容が確定している場合は、完成した原稿の送付があっても、最新号に掲載できない場合がある。

4. 原稿の発送と受理

4.1 原稿の受付日(Received date)は、オリジナル原稿が事務局に着信した日とし、原稿の受理日(Accepted date)は、原稿の審査または査読が終了した日とする。

4.2 原稿の返却
受理された原稿は原則として著者に返却しない。

5. 原稿の審査・査読・査閲、訂正

5.1 原稿の採否は編集委員会の審査・査読の結果により決定する。

5.2 受理原稿について、編集委員会は編集委員会の選定した審査員等の意見を添えて訂正を求めることがある。

審査員等が要求した箇所以外に変更を加える場合は、原則として審査員等の承諾を得る。

原稿著者と審査員等との連絡は事務局が中継して、原則として電子メールで行う。

5.3 訂正を求められた原稿は速やかに修正の上、再提出する。

訂正の期限または返送の日から30日以上経て再提出された場合は、新たに投稿されたものとする可能性がある。

5.4 英文概要を含む論文は英文概要の査閲がある。英文概要査閲は原則として1回とし、査閲者と著者の意見が異なる場合は、綴りや文法上の明らかなミスを除き、著者の意見を採用する。

6. 原稿種類の変更

編集委員会の判断により、著者の承諾を得て原稿種類を変更することがある。

7. 著者校正と正誤表

7.1 著者校正は原則として1回とする。

その際、印刷上の誤り以外の字句の修正あるいは新規の挿入句、図版の修正などは原則として認めないが、編集委員会が必要と認める場合はその限りではない。

著者校正結果は校正ゲラ発送後、3日以内に返送する。期限に遅れた場合、編集委員会の校正を以て校了とすることがある。

7.2 著者が正誤表の掲載を希望する場合、編集委員会に文書で申し出、編集委員会の判断で、これを掲載する。

8. 別刷り

別刷りは有料で、投稿カードにあらかじめ別刷りの希望部数を10部単位で記入すること。但し、著者校正時に、ゲラ刷りによりページ数を確認して部数を変更できる。

9. 原稿などの送付先

投稿カード、原稿、電子記録媒体、顔写真など全ての提出、連絡、問い合わせの宛先は下記枠内の宛先とする。

〒101-0044 東京都千代田区鍛冶町 1-10-4
丸石ビルディング 6階
合成樹脂工業協会
(ネットワークポリマー編集委員会)
TEL:03-5298-8003 FAX:03-5298-8004
E-mail : fujimoto@tjpie.jp

10. 原稿料

投稿論文の原稿料は無料とし、寄稿論文については編集委員会の規定による。

11. 本誌の原稿締め切り日と発行予定日

No	発行予定	原稿締め切り
No.1	1月中旬	10月末日
No.2	3月中旬	12月末日
No.3	5月中旬	2月末日
No.4	7月中旬	4月末日
No.5	9月中旬	6月末日
No.6	11月中旬	8月末日

別表

原稿の種類	原稿の構成					顔写真
	※1) 和文概要	※1) 英文概要	※1) key words	※2) 本文（図表込 み）	※3) 図表	
報文 <i>Original</i>	400 字程度	150 語程度	5 単語以内	20,000 字以内	15 点以内	不要
ノート <i>Note</i>	不要	150 語程度	5 単語以内	8,000 字以内	8 点以内	不要
速報 ※4) <i>Rapid communication</i>	不要	不要※5)	5 単語以内	6,000 字以内	8 点以内	不要
総説 <i>Review</i>	400 字程度	150 語程度	5 単語以内	20,000 字以内	15 点以内	要
総合論文 <i>Comprehensive</i>	400 字程度	150 語程度	5 単語以内	20,000 字以内	15 点以内	要
解説 <i>Description</i>	不要	不要※5)	5 単語以内	12,000 字以内	12 点以内	要
資料 <i>Technical material</i> 報告 <i>Report</i>	不要	不要※5)	5 単語以内	6,000 字以内	8 点以内	要
若手研究者の目	不要	不要	不要	1,800 字以内	2 点以内	要
その他	不要	不要	不要	4,000 字以内	5 点以内	要

(別表脚注)

- ※1) 和文概要（400 字程度）、英文概要（150 words 程度）は本文を参照せずにそれだけで、論文の概要が把握できるものとする。英文概要を要する原稿では、英文の key-words を 5 words 以内をあげる。
- ※2) 本文の文字数は和文の場合別表の字数とする。図表は、横幅が半ページ幅（片段）を想定する場合は 300 字で、ページ全体の横幅（段抜き）を想定する場合は 1,000 字で 1 図表分として換算し、別表指定の文字数以内におさめる。英文では、別表の字数の 1/3 の単語数（報文、総説では 6,600 words 以内）とする。別表指定の通りにならない場合は事務局に相談する。
- 和文本文は、A4 用紙に、上下・左右に各 30mm の余白を取り、原稿 1 枚につき **36 字×28 行**=1008 字で作成する。（原稿 2 枚で刷上がり 1 ページに該当する。）英文本文は、上下・左右に各 30mm の余白を取り、原稿 1 枚につき 20 行で作成する。
- ※3) 図、表、写真は原則として 1 点ごとに用紙 1 枚に書くこと。
- 構造式、スキーム、図面などは適切なソフトを利用し、Word, Excel, PowerPoint のいずれかに貼り付ける。どうしても手書きが必要な場合はテンプレートなどを用い、丁寧に書くこと。（そのまま必要に応じて縮尺して掲載する。掲載できない場合は、編集委員会の判断で著者に書き直しを依頼することがある。）
- ※4) 速報：*Rapid communication* 速報として掲載を希望する理由書（300~400 字程度）を添付すること。
- ※5) 速報：*Rapid communication*, 解説：*Description*, 資料 *Technical material* 英文目次に掲載するため、英文タイトルを添付すること。

「ネットワークポリマー論文集」原稿執筆の手引

1. はじめに

投稿規定、原稿執筆の手引きおよび図面原稿の書き方をよく読んで体裁の整った、読みやすく、理解しやすい論文を執筆されたい。

2. 原稿の体裁

2.1 原稿はA4用紙（縦置き、横書き）を用い、和文または英文で書く。

2.2 和文では、原則として、上下左右30mmの余白を取り、1ページ28行、1行36文字、明朝体を用いる。

（原稿2枚で文字数が刷上がり1ページに該当する。）

英文では、原則として、上下左右30mmの余白を取り、ダブルスペースで1ページ20行、Times体またはCentury体を用いる。

字体については、例えば、図表表記をゴシック体にする等、定められた表記ではそれに従い、明朝にかえてMS明朝等を、TimesにかえてTimes New Roman等を用いてもよい。図表では内容にふさわしい字体を用いる。和文中の数字、英語表記、等は指定のない限りTimes体またはCentury体とする。

2.3 原稿の順番と図表説明の表記

(1) はじめに、次の内容を記載する。

和文報文の場合、原稿の種類（報文）、標題、著者名、所属機関名及びその所在地、和文概要、および、英文で、原稿の種類（Original）、標題、著者名、所属機関名及びその所在地、英文概要(Synopsis)、key-wordsを記載する。

英文報文の場合 英文で原稿の種類(Original)、標題、著者名、所属機関名及びその所在地、英文概要(Synopsis)、key-wordsを記載する。

報文以外の原稿についても、同様に投稿規定別表に定められた項目を記載する。

(2) 続いて、本文、謝辞・付記、参考文献、を記載する。これらの原稿にはページ番号をつける。

(3) 図中（縦軸及び横軸の文字等）およびCaption(説明文)は英文表記とする。

(4) 表およびCaptionは英文表記とする。

3. 原稿作成

3.1 用字・用語

原稿は原則として当用漢字と現代かなづかいを、外国語の単語はカタカナあるいは原語を用いる。

学術用語は、「学術用語集（文部科学省編）」に従う。

数字、アルファベット等は半角とし、句読点は「,」,「。」を用いる。

3.2 題目

原稿の内容を的確に表す独立した題目をつける。できるだけ略号は用いない。

英文題目の場合、最初に”Study on”とか”On the”などはつけず、冠詞、不定冠詞はできるだけ省略する。

3.3 著者名

姓・名とも略さず記入する。著者が複数で、機関が異なる場合、*、**、***、…をつける。

3.4 所属機関名

著者の所属機関名、所在地を脚注に記入する。機関が異なる場合は、*、**、***、…をつける。

3.5 和文概要、英文概要

得られた重要な結果と結論を、和文概要は400字程度、英文概要は150words程度で表記する。

原則として文中に段落は設けない。本文が英文の場合は、和文概要は不要である。

英文概要の次に、論文の記載内容を示す key-words として、英単語 5 words 以内を記載する。

3.6 英文 Key-words

英文 Key-words では、化合物名の略記は用いないことが望ましい。最初の文字は大文字、Key-words と Key-words との間は、「,」で区切る。5 語以内とする。

4. 本文

4.1 本文は次の形式に従って書くことが望ましい。複数の見出しから構成されるようにする。

緒言, 理論, 実験, 結果, 考察, 結言 (結論)。このうちいずれかの項目は省いてもよい。但し、総説もしくは総論論文では諸言に変えて、「はじめに」とし、結言に変えて「まとめ」、「おわりに」とする。

ノート, 速報および寄稿文には、投稿規定の別表に示すごとく、上記形式の一部を簡略してもよい。

また、内容として、上記形式が著しく不適切な場合は別形式としてもよい。

章・節・項は次の例のようにし、章の前を一行あけ、章・節・項の数字の後は1字あけて書く。

[例] 3. 結果と考察 (章)
 3.2 考察 (節)
 3.2.1 多層材料の異方性 (項)

4.2 化合物・化学式の書き方

(1) 本文中では化学式を使わないで化合物名で書く。

(なお、論文を簡潔に見易くするために、紛らわしくない場合には、元素は記号で、簡単な化合物は化学式で表してよい)。

化合物の命名は原則として IUPAC の命名法に従い、原則として、日本語名で書く。

① 日本化学会化合物命名小委員会編「化合物命名法について」

② 高分子, 27, 345 (1979) ③ 高分子, 35, 880 (1986), ④ 高分子, 49, 85 (2000) を参照。

(2) 化合物を略記号で表す場合は、本文の最初に出てくる箇所で、正式の化合物名に略記号をゴシック字で付記する。

[例] アゾビスイソプロチロニトリル (**AIBN** と略記) または アゾビスイソプロチロニトリル (**AIBN**)

(3) 化合物を番号で表す場合には、[1], [2], [3] ... のように書く。(数字はイタリック)

(4) 化合物を日本語で書くとわかりにくいような場合には、英語名を併記する。

(5) 化合物名では構造が簡単にわからないような場合には、構造式を付記する。

4.3 単位・記号

(1) 数字記号 (JIZ Z 8201), 量記号 (JIS Z 8202) の表示はそれぞれの JIS に従う。

(2) 単位は SI を用い、その表示方法は JIS Z 8203 「国際単位系 (SI) およびその使い方」に従う。

単位記号には複数を 사용하지 ない。「℃, %」以外は数詞と単位の間半角スペースを入れる。

(3) 時間の単位記号を文章中で単独で用いるときは、年, 月, 日, 時間, 分, 秒, の漢字を使用する。

またこれらを積や商の形, および, 図, 表中で用いるときはそれぞれ y,m,d,h,min,s を使用する。

4.4. 数値・数式

数値は原則として $\frac{a}{b}, \frac{a+b}{c+d} \sin ax$ のように書くが、文中にでてくるものは $a/b, (a+b)/(c+d), (2/3) \sin ax$ のように1行に書く。

4.5 引用文献 (項目としては「参考文献」とする)

- (1) 1つの文献番号には、1つの文献番号を対応させる。同一著者で同じ雑誌の文献であっても”ibid.”は用いない。
- (2) 引用文献は本文中に、^{1),2)...} または、¹⁾⁻⁵⁾ のように通し番号で示す。

雑誌では、文献番号（上記通し番号）、著者名、雑誌名、**巻数**、通巻ページ数、（発行西暦年）、の順に記載し、通巻ページ数がない場合は巻数の後に（号数）、号内ページ数、を記載する。

単行本では、文献番号、著者名または編集者名、“書籍名”、改訂版数、出版社名、（発行西暦年）、p.ページ数、の順に記載する。

特許では、文献番号、発明者または特許権者、特許種別、特許番号（外国特許では発行西暦年）、を記載する。

規格等の場合は、文献番号、規格等の種別と番号（あれば、発行西暦年）、を記載する。

インターネット上の情報の場合 電子ジャーナルの論文では、著者名、記事・論文名、出版年、巻数、号数、はじめのページ-おわりのページ、入手先、（入手日付）。Web ページでは、著者名、Web ページのタイトル、アドレス（URL）、（入手日付）を記載する。その他「SIST（科学技術情報流通技術基準）SIST 08 学術論文の執筆と構成」を参考とする。

[例]

<雑誌の場合>

- 1) M. Kamigaito and K. Satoh, *J. Network Polym. ,Japan*, **30**, 234 (2009) [in Japanese].
- 2) M. Kato, A. Tsukigase, A. Usuki, T. Shimo, and H. Yazawa, *J. Appl. Polym. Sci.*, **99**, 3236-3240 (2006)
- 3) 有田和郎, 小椋一郎, ネットワークポリマー, **30**, 192 (2009)
- 4) 野村 衛, 武部具文, 木材工業, **33**, 223-236 (1978)

<単行本の場合>

- 5) J. A. Dean, “Lange’s Handbook of Chemistry,” 15th ed., McGraw Hill, New York, NY, USA (1999).
- 6) L. H. Sperling, “Comprehensive Polymer Science,” Ed. by G. Allen, Pergamon, New York (1989) p.423.
- 7) 藤本 博, 山辺信一, 稲垣都土, “有機反応と軌道概念”, 化学同人, (1986) p.97

<プロシーディングスなどの場合>

- 8) T. Imai, G. Komiya, K. Murayama, T. Ozaki, F. Sawa, T. Shimizu, M. Harada, M. Ochi, Y. Ohki, and T. Tanaka, Proc. of Int. Symp. on Electrical Insulating Materials (ISEIM) 2008, Mie, Japan, 7-11, Sept. (2008) p.299.

<電子ジャーナルの論文の場合>

- 9) 永瀬 節治. 近代的並木街路としての明治神宮表参道の成立経緯について. ランドスケープ研究（オンライン論文集）. 2009, vol.2, p.46-53.

http://www.jstage.jst.go.jp/article/jilaonline/2/0/46/_pdf-char/ja/, (参照 2009-10-15).

- 10) Stephanie H. Chanteau and James M. Tour. Synthesis of Anthropomorphic Molecules: The NanoPutians. *Journal of Organic Chemistry*. 2003, vol.68, no.23, p. 8750-8766. doi:10.1021/jo0349227, (cited 2009-10-15).

<ウェブサイト中の記事>

一連番号) 著者名. “Web ページの題名”. Web サイトの名称. 入手先, (入手日付).

厚生労働省. “『生涯キャリア支援と企業のあり方に関する研究会報告書』について.” 厚生労働省.

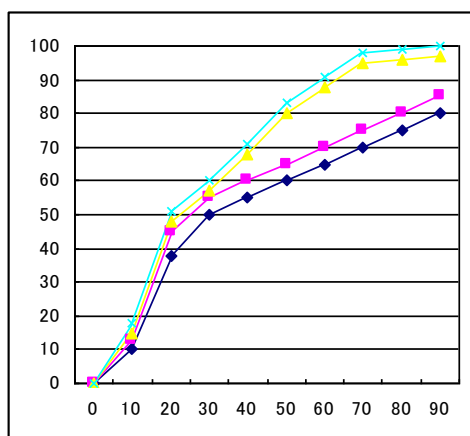
<http://www.mhlw.go.jp/houdou/2007/07/h0720-6.html>, (参照 2010年11月2日).

- (3) 和雑誌名は省略しない。外国語の雑誌名は **Chemical Abstracts** で用いられる省略名を記載する。
- (4) 見出しに文献番号を付けることは極力避け、文献著者名を文中に引用する場合は所属や敬称は付けない。
なお、謝辞においては所属と敬称を記載してもよい。
- (5) 脚注は上付きで、^(*), ^{(*)2}, …のように示し、参考文献と区別する。

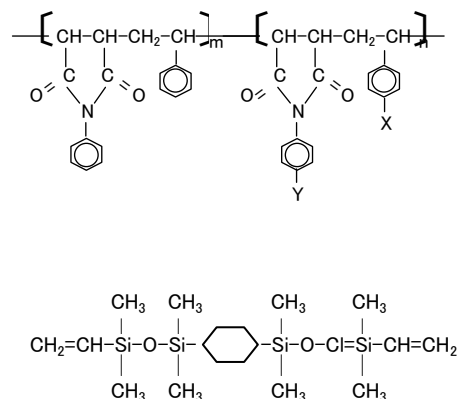
5. 図・表の書き方

- 5.1 図・表は半ページ幅（片段：83mm 幅目安）またはページ幅（段抜き：173mm 幅目安）を想定して作成されたい。
- 5.2 図・表の説明（Caption）は原則として英文とする。
- 5.3 表の番号は **Table1, Table2...** のように通し番号を付け、表の **Caption** は表の上に記す。
- 5.4 図の番号は **Fig.1, Fig.2...** のように通し番号を付け、**Caption** は図の下に記す。写真も通常は **Fig.** とする。
- 5.5 図・表の大きさは刷り上がり幅 **7.8cm** 以下（片段）を原則とするが、特に複雑な図では刷り上がり幅 **17 cm** を限界とする。原図および軸目盛りはこの刷り上がり寸法の大きさに縮小されることを考慮して作成する。
- 5.6 本文中で図・表・式を引用する場合は、**Fig. 1** または **Table 1** のように、ゴシックで表すこと。
- 5.7 図、表、写真、などの原稿はそれぞれ1点ごとにA4版用紙1枚に書く。
- 5.8 図原稿には周囲 **3cm** 以上の余白を置くこと。
- 5.9 他人の図をそのまま転載する場合は、原著者の許諾を必要とする。
- 5.10 軸の目盛りと説明
 - (1) 図は縦、横軸に必要な目盛り（通常は左側縦軸と下側横軸）の線を短く図の内側に入れ軸の説明を縦、横軸の外側にそれぞれ軸に平行に左から右へ書き、軸の中央に置く。
 - (2) 図柄中の記号は、なるべく簡単なもの（○, △, □, ●, ▲, ■など）を用いる。刷り上がりがモノクロとなることを考慮し、見分けやすくなるように配慮する。原稿をモノクロ（黒色のみ）でプリントアウトし、確認すること。黄色、薄青色等は通常は不適である。
 - (3) ベンゼン核は原則として下記のように正六角形の中に実線で丸を入れる。または二重結合を線で表し、両者を混用しないこと。
- 5.10 化学式、構造式など
 - (1) 複雑な化学式、環状の構造を表す構造式、化学反応のフローチャートなどは図の書き方に準じてすべて墨書き、**Scheme1, Scheme2...** のように通し番号をつけ、表示する。
 - (2) 化学式、構造式の文字は全て英語で書く。ただし、量記号などに用いるギリシャ文字などはこの限りではない。
 - (3) 本文中で式を参照するときは、**Scheme1, Scheme2...** と記す。

【例 -1 図原稿】



【例-1 Scheme】



6. よく使用される単語および表現方法の統一

本誌では、次のように表現を統一する。但し、著者がどうしてもその表現を使用すべき理由がある場合はこれによらずに、なくてもよいものとする。

6.1 著者1人称：「著者」、「著者ら」に統一する。（筆者、我々、等の表現をとらない。）

6.2 機器、材料、試薬等の製造者名等で、社名を記載する場合、国内企業であれば、(株)***、***(株)、(有)***のようにし、***部分は省略しないこと。海外企業であれば、***社として***部分をカタカナとするか、社名全てを英文表記とする。なお、漢字使用国で社名が漢字で表現できる場合、国内企業の海外現地法人等の場合も原則として海外企業としての表示方法に従う。社名変更があった場合は、当該機器等の導入時期の社名を表示すること。大学や研究所名を表示する場合は、「学校法人」「独立行政法人」「財団法人」等は省略してよい。

6.3 参考文献、引用文献：「参考文献」に統一する。（「引用」、「引用する」という表現は使用してよい。）

6.4 謝辞等における敬称は原則として、氏、博士、Mr.、Dr.のいずれかとする。謝辞等における対象者の所属は、法人名またはそれに類する範囲までとする。（例えば、〇〇大学大学院、〇〇大学、〇〇(株)、〇〇研究所、〇〇協会）

6.5 次のような場合は、かな書きが適当である。「出来る」→「できる」、「僅か」→「わずか」、「殆ど」→「ほとんど」、「甚だ」→「はなはだ」、「可也」→「かなり」、など。